

令和6年度 小平市立小平第十小学校学校 学校評価計画表						
学校教育目標		◎考える子(重点目標) 子どもの意見表明機会の創出、自主性、主体性への導き ◎やさしい子(重点目標) 「自分も他の人も大切に」人権の根幹の体得			○やりとげる子 ○たくましい子	
目指す学校像(ビジョン)						
【目指す学校像】		「地域のキーステーション」として存在する学校				
【目指す児童・生徒像】		かかわる力(人とかかわり、物とかかわり、地域とかかわり)をもった児童				
【目指す教師像】		「すべては十小の子どもたちの幸せのために」「こだいら十小あったか先生」				
前年度までの学校経営上の成果と課題						
【成果】学校行事の見直し、学習の改善、地域との連携など改革を進めることができた。 【課題】教職員、児童ともに積極的に人や物や地域とかかわろうとする「かかわる力」の向上が必要である。						
	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	努力目標(評価基準)		成果目標(評価基準)
学力向上	主体的で対話的な深い学びを通して、学力を向上させる。	基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と活用を図るとともに、「教」えて、「考」えさせる授業を大切に。指導者の発問・指示・説明を精選した授業を展開していく。 学習者用端末、ICT機器を積極的に活用した指導内容・方法・体制の工夫・改善を図りながら、授業刷新を進める。	・教科担任、交換授業の積極的実施。 ・教員同士によるOJT研修を学期に3回以上の実施する。 ・デジタルドリル、デジタル教科書、教科書QRコード等を毎日活用する。	4 実施率100%	4 実施率100%	
				3 実施率80%以上	3 実施率80%以上	
				2 実施率60%以上	2 実施率60%以上	
				1 実施率60%未満	1 実施率60%未満	
				4 毎日実施	4 児童の自己評価で、毎日実施	
健全育成	「基本的生活習慣」の定着と社会性を育む。	集団指導と個に応じた見届ける指導にメリハリをつけながら、社会性を育ませる。 いじめ、不登校、問題行動、人権侵害などへの早期対応体制を確立する。(いじめ防止)	・あいさつの励行、靴箱カカト整え、傘束ね、廊下歩行の実施。 ・学期に一度の生活指導全体会、週に一度の生活指導夕会を行い、児童の情報共有を行う。 ・月に一度のいじめ対策委員会の実施。	3 週3、4日実施	3 児童の自己評価で、3、4日実施	
				2 週1、2日実施	2 児童の自己評価で、1、2日実施	
				1 実施日なし	1 児童の自己評価で、実施日なし	
				4 教職員の自己評価で肯定的回答90%以上	4 児童の自己評価で肯定的回答90%以上	
				3 教職員の自己評価で肯定的回答80%以上90%未満	3 児童の自己評価で肯定的回答80%以上90%未満	
特色ある学校づくり①	人、自分、モノ、コト、地域、安全、地域、安全、公共等を学習課題として「かかわる力」を育む。 縦割り集団の交流を通して社会性を育む。 特別活動を通して、子どもたちの相互に高め合うこと「十小は自分自身で創る」行動力を身に付ける。	「かかわりタイム」を創出し、子ども一人一人の社会性やかかわる力、モラルを身に付ける。 ・なかよし遠足、なかよし班遊び、なかよし班清掃、スマイル交流会の実施。 ・学年を超えてかわる教室配置、職員室の机配置の実施。 ・特別活動を校内研究と位置づけ、学級活動の実践を積み重ねる。	・「かかわりタイム」の定期的な実施。 ・なかよし遠足、なかよし班遊び、なかよし班清掃、スマイル交流会の実施。 ・学年を超えてかわる教室配置、職員室の机配置の実施。 ・特別活動を校内研究と位置づけ、学級活動の実践を積み重ねる。	2 教職員の自己評価で肯定的回答70%以上80%未満	2 児童の自己評価で肯定的回答70%以上80%未満	
				1 教職員の自己評価で肯定的回答70%未満	1 児童の自己評価で肯定的回答70%未満	
				4 教職員の自己評価で肯定的回答90%以上	4 児童の自己評価で肯定的回答90%以上	
				3 教職員の自己評価で肯定的回答80%以上90%未満	3 児童の自己評価で肯定的回答80%以上90%未満	
				2 教職員の自己評価で肯定的回答70%以上80%未満	2 児童の自己評価で肯定的回答70%以上80%未満	
特色ある学校づくり②	「地域のキーステーション」として存在する学校となる。 子どもたちの健やかな育ちのために保護者・地域の方々・地域施設の方々が参画・協働する活動・場を設定する。 学校の取組が家庭・地域に理解され、協力を得て信頼されるようにする。	学校図書担当教員、学校司書と連携して、学校図書館の機能や教材・教具の充実を図る。 子どもたちの健やかな育ちのために保護者・地域の方々・地域施設の方々が参画・協働する活動・場を設定する。 学校の取組が家庭・地域に理解され、協力を得て信頼されるようにする。	・図書室、中庭の地域開放。 ・中庭での読書の推進。 ・ゲストティーチャー、授業支援、行事支援、児童理解支援などの積極的活用。 ・教育方針や学校に取組を積極的に伝える。(学校だより、学級だより、学校ホームページ等)	1 教職員の自己評価で肯定的回答70%未満	1 児童の自己評価で肯定的回答70%未満	
				4 教職員の自己評価で肯定的回答90%以上	4 児童・CS委員の自己評価で肯定的回答90%以上	
				3 教職員の自己評価で肯定的回答80%以上90%未満	3 児童・CS委員の自己評価で肯定的回答80%以上90%未満	
				2 教職員の自己評価で肯定的回答70%以上80%未満	2 児童・CS委員の自己評価で肯定的回答70%以上80%未満	
				1 教職員の自己評価で肯定的回答70%未満	1 児童・CS委員の自己評価で肯定的回答70%未満	
教務改善、力の働き	働き方改革「ライフワークバランス」の推進。	子どもたちと向き合う時間の創出と自らの生活や互いの生活を豊かにする。	・留守番電話の設定。 ・予定会議の厳選、時間短縮。	4 教職員の自己評価で肯定的回答90%以上	4 教職員の自己評価で肯定的回答90%以上	
				3 教職員の自己評価で肯定的回答80%以上90%未満	3 教職員の自己評価で肯定的回答80%以上90%未満	
				2 教職員の自己評価で肯定的回答70%以上80%未満	2 教職員の自己評価で肯定的回答70%以上80%未満	
				1 教職員の自己評価で肯定的回答70%未満	1 教職員の自己評価で肯定的回答70%未満	
				4 教職員の自己評価で肯定的回答90%以上	4 教職員の自己評価で肯定的回答90%以上	